

美術に視る音色

描かれた楽器たち

NEIRO

色彩で奏でられる、音色の世界へ。

ART

PREMIUM EXHIBITION

KISHICHIRO

昭和初頭、日本の新しい音楽に懸けた情熱！



OKURA KISHICHIRO HOUGAKU

大倉喜七郎と邦楽

— 幻の豎笛“オークラウロ”を中心に —

2011.8.2—9.25

TUE SUN

2展併催企画

OKURA MUSEUM OF ART

アメリカ大使館 大倉集古館

アクセス (地下鉄東京メトロ)

- 南北線 六本木一丁目駅より5分
- 日比谷線 神谷町駅より7分
- 銀座線・南北線 溜池山王駅より8分
- 銀座線 虎ノ門駅より10分

財団法人 大倉文化財団 大倉集古館 OKURA MUSEUM OF ART

TEL:03-3583-0781 <http://www.shukokan.org>

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-3 ホテルオークラ東京本館正面玄関前

① オークラウロを演奏する大倉喜七郎 ② オークラウロ(部分) ③ 原在中「百鬼夜行図」(右隻・部分) ④ 錦木清方「七夕」(左隻・部分) ⑤ 英一蝶「雑画帖」のうち「獅子舞図」(部分)

大倉財閥の2代目で、パロンの愛称で親しまれた喜七郎(1882～1963)にゆかりの深い邦楽関係の資料を展示します。喜七郎は大正末期から昭和初期にかけて、今までになかった新しい日本の音楽を志向し、尺八にフルートのベーム式キーシステムを取り入れた新楽器「オークラウロ^{やまとがく}「Okraulor」(もしくはオークラロ)」の考案・制作を手掛けたほか、伝統的な三味線音楽に西洋音楽の歌唱法などを取り入れた「大和楽」を創始するなど、日本の伝統音楽と西洋音楽の長所を併せ持つ音楽の創生を試みました。本展覧会では、現在では幻の楽器ともいわれる「オークラウロ」について、当時使われていた楽器や制作の過程における試行錯誤を物語る楽器の試作品、オークラウロ楽団の関連資料などを中心に展覧します。また、「大和楽」が今日まで受け継がれ、更なる発展を続ける活動の一端をご紹介します。ほかに、当時、美術・音楽をはじめとする文化のパトロンとして異才を放った喜七郎の人物像を偲ばせる自筆の詩軸や愛用品等を展示いたします。

大倉喜七郎と邦楽

— 幻の堅笛、オークラウロを中心に —



(Sop) (Alt) (Bas)
オークラウロ



オークラウロを合奏する喜七郎と奏者たち
(後列左から荒木和昭・古賀一鶴・岸星晴・福田真聡)

K.O.K. 内部風景

SPECIAL EVENT 併催イベント

オークラウロのコンサート

男爵・大倉喜七郎が昭和初期に考案・制作した楽器・オークラウロ。尺八の歌口とベーム式フルートのキーシステムを取り入れたそれまでにない堅笛でした。その幻の音色が尺八奏者・小湊昭尚氏の演奏で今に蘇ります。ジャズピアノ・保坂修平氏との共演によるLIVE感溢れる一時をお楽しみください。

出 演: 小湊昭尚(尺八・オークラウロ)、保坂修平(ピアノ・アレンジ)
曲 目: 「エデンの東～シャレード～ムーン・リバー」、「庭の千草」(J.Stevenson)、
「主よ人の望みの喜びを」(J.S.Bach) 「スペイン」(C.Corea) ほか※曲目等は変更になることもございます。

DATE: 2011 8.16(火)	ランチ付き芸術堪能プラン ■会 場: ホテルオークラ東京 本館5階 欧風料理「オーキッドルーム」 ■料 金: 8000円 ※アート展鑑賞券、大倉集古館鑑賞券、コンサート、ランチ(ワンドリンク付き)、サービス料込み ■定 員: 80名 ■楽器提供(オークラウロ): 泉州尺八工房 ■主 催: (株)ホテルオークラ東京 ■協 力: 公益財団法人大倉文化財団・大倉集古館 ■ご予約・お問い合わせ: ホテルオークラ東京 営業企画部 企画課 TEL. 03-3505-6110(月～金10:00～18:00、祝日を除く)
OPEN: 13:45p.m. START: 14:00p.m.～ 15:30p.m.	※本イベントの収益は東日本大震災の義援金として寄付いたします。

DATE: 2011 9.10(土)	「幻の堅笛」オークラウロ&尺八でJAZZ NIGHT!! ■会 場: 大倉集古館1F展示室 ■料 金: 1000円 ※コンサートのみの料金となります(展覧会入場料は含みません)。 ■座 席: 全席自由 ■楽器提供(オークラウロ): 泉州尺八工房 ■主 催: 公益財団法人大倉文化財団・大倉集古館 ■協 力: (株)ホテルオークラ東京、タカギクラヴィア(株) ■ご予約・お問い合わせ: 大倉集古館 TEL. 03-3583-0781
OPEN: 17:30p.m. START: 18:00p.m.	

大和楽の公演

大倉喜七郎が創始した新邦楽・大和楽による特別公演です。聴松の名で喜七郎が自ら作曲した草創期の曲を中心に、現在の大和楽を代表する曲も併せて演奏いたします。伝統の中に斬新な華やかさが息づく優美な大和楽の世界を、間近でご鑑賞頂けるまたとない機会です。

DATE: 2011 8.27(土)	大倉集古館 大和楽特別公演 ■出 演: 三味線 (特別出演) 大和楽二代目家元 大和久満・大和櫻笙 唄 大和左京・大和久萌 箏 吉田敏乃 解 説 今井久之 ■曲 目: 「炉辺」(作詞 島崎藤村・作曲 大倉聴松) 小品二題「古跡の秋」(作詞 木村富士・作曲 大倉聴松)「狐」(作詞 長田幹彦・作曲 岸上きみ) 「砂引草」(作詞 飯塚幸恵・作曲 大和久満・箏手付 米川敏子) ■会 場: 大倉集古館2F展示室 ■料 金: 1000円 ※公演のみの料金となります(展覧会入場料は含みません)。 ■座 席: 全席自由 ■協 力: (株)ホテルオークラ東京
OPEN: 17:30p.m. START: 18:00p.m.	

小湊昭尚 (尺八・オークラウロ)

1978年、民謡小湊流家元の長男として福島県須賀川市に生まれる。4歳より民謡の唄を始め、舞台にも立つ。1990年より佐々木大盟氏に尺八の手ほどきを受ける。1995年、故人間国宝山口五郎氏に師事。2001年東京藝術大学を卒業。2004年avexからZANの尺八、Voとしてメジャーデビュー。2008年にZANとして全米デビュー。以来、個人、ユニットとして世界数十ヶ国で公演。NHKの音楽番組、題名のない音楽会など放送関係にも出演。現在、石井竜也、Gackt、エリック・マートン、EXILEをはじめ、多数のアーティストのCDの録音、共演、アニメやゲームのサウンドトラック、古典から現代音楽迄ジャンルを問わず活動中。



Akihisa Kominato

保坂修平 (ジャズピアノ)

1978年生まれ。群馬県出身。東京藝術大学学理科および大学院卒業。クラシック、ジャズ、ポピュラーの語法をバランスよく取り入れた幅広く柔軟な音楽性には定評があり、国内外の一流アーティストのサポートおよび、自己の活動を活動に行っている。2008年には、新国立劇場で上演された舞台「リンゴの木の下で～昭和21年のジャズ」(広井王子原案、小池竹見脚本、横山智佐、井之上隆志、中河内雅貴主演)の音楽監督および演奏。他に「つのだ☆ひろ」バンドでの演奏、また2008年11月、乃木坂コレド・シアターで上演された芝居「世界の中心で朔太郎をさげふ」の音楽監督として作曲と演奏を担当。



Shuhei Hosaka



大和久満



大和左京



伊東深水「小雨」

「秋草鹿図四弦琵琶 銘 摺衣」

英一蝶
「雑画帖」のうち「獅子舞図」(部分)

狩野常信「松に琴図」

【主な展示作品】
「宮楽図」(桃山時代・17世紀)
「職人尽図」(桃山時代・17世紀)
「遊楽人物図」(江戸時代・18世紀)
狩野養竹「源氏物語図」(江戸時代・17～18世紀)
狩野常信「松に琴・紅葉に琵琶横笛図」(江戸時代・18世紀)
英一蝶「雑画帖」(江戸時代・18世紀)
鈴木其一「宮女奏楽図」(江戸時代・天保2(1831)年)
錦木清方「七夕」(昭和4(1929)年)
伊東深水「小雨」(昭和4(1929)年)
「桐菊花時絵巻」(江戸時代・17世紀)
「秋草鹿図四弦琵琶 銘 摺衣」(江戸時代・18世紀)

【併催展覧会】 第17回 秘蔵の名品 アートコレクション展 日本絵画の巨匠たち 文化勲章受章作家の競演

期 間 2011年8月6日(土)～28日(日)
会 場 ホテルオークラ東京 別館「アスコットホール」
※「大倉喜七郎と邦楽」・「美術に視る音色」との共通入場券を発売いたします。

■主 催: 大倉集古館
■協 力: (株)ホテルオークラ東京、大成建設(株)、特種東海製紙(株)
■休 館 日: 8月29日(月)、9月5日(月)、12日(月)
■開館時間: 10:00～16:30(入館は30分前まで)
■料 金: 一般800円 大学・高校生・65歳以上 500円 中学生以下 無料
※「大倉喜七郎と邦楽」・「美術に視る音色」2展をご覧頂けます

※土・日曜は高校生以下の生徒と引率の両親・教師無料 ※20名様以上の団体は100円引

担当学芸員によるギャラリートークを行います。
ギャラリートークのお知らせ 8月13日(土)、9月19日(月・祝) 各日14:00～
※お申し込みは不要です。当展の入場券が必要です。

公益財団法人 大倉文化財団・大倉集古館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-3 TEL.03-3583-0781
http://www.shukokan.org

美術を前にして、人は時に視覚以外の様々な感覚をよび起こされることがあります。しばしば視ることによって聴くというような経験しますが、もちろん描かれた楽器や奏者が音を奏することはありません。音楽を耳で聴くのではなく、目から得た情報により聴こうとするのはなぜなのでしょう。過去に聴いた音楽の再現、もしくは理想の音楽の構築、更には想起される様々な物語の一場面の追体験など。そこには当然ながら人の記憶を背景とした豊かなイマジネーションが介在します。本展では、当館の日本・東洋美術コレクションの内、画中に楽器が描かれた絵画作品を中心に展覧いたします。



英一蝶
「雑画帖」のうち「太神楽図」(部分)

「青磁染付宝文大皿」(部分)

鈴木其一「宮女奏楽図」



原在中「百鬼夜行図」(右隻)



アクセス (地下鉄東京メトロ)

南北線 六本木一丁目駅より5分 | 日比谷線 神谷町駅より7分
銀座線・南北線 溜池山王駅より8分 | 銀座線 虎ノ門駅より10分